

#### 4: 細菌表層因子の病原性に関する研究

細菌の表層因子は組織への定着能、抗原性、種々の宿主由来抵抗性因子に対する耐性に関与していることが考えられています。私たちは歯周病原菌である *A. actinomycetemcomitans* (Aa) の外膜タンパク、*Tannerella forsythia* (Tf) の表層タンパク (S-layer)、黄色ブドウ球菌の SasA タンパクについて研究を行っています。

現在までに歯周病原菌である *A. actinomycetemcomitans* (Aa) の主要な6つの外膜タンパクを同定しました。特に私たちが命名した Omp100 と呼ぶ外膜タンパクは細胞への付着因子、侵入因子、補体抵抗性因子、炎症性サイトカイン産生誘導因子として複数の病原性を有していることを明らかにしています。歯周病原菌である *Tannerella forsythia* (Tf) Tf については S-layer が補体抵抗性因子であること、他菌との共凝集能があることを明らかにしました。また、黄色ブドウ球菌の表層因子である SasA タンパクが唾液凝集素である gp340 と特異的に結合することも明らかにしました。

今後さらに解析を進めていき、細菌表層因子の個々の病原性について明らかにし、感染・発症との関連性について検討していきたいと考えています。

